

令和8年度 長野県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

学びの改革支援課

【前期選抜】

1 受検者総数 5,463人(-428人)

2 検査結果

()内は前年度数値、平均点についてはその増減

| 検査 | 検査 I (国語、社会、英語) | 検査 II (数学、理科) |
|-------------|-------------------------------|------------------------------|
| 平均点 | 91.44(120点中) (93.98,-2.54) | 58.43(80点中) (59.48,-1.05) |
| 200点(満点)の人数 | 173(178) | |

【後期選抜】

1 受検者総数 7,918人(-484人)

2 教科別結果

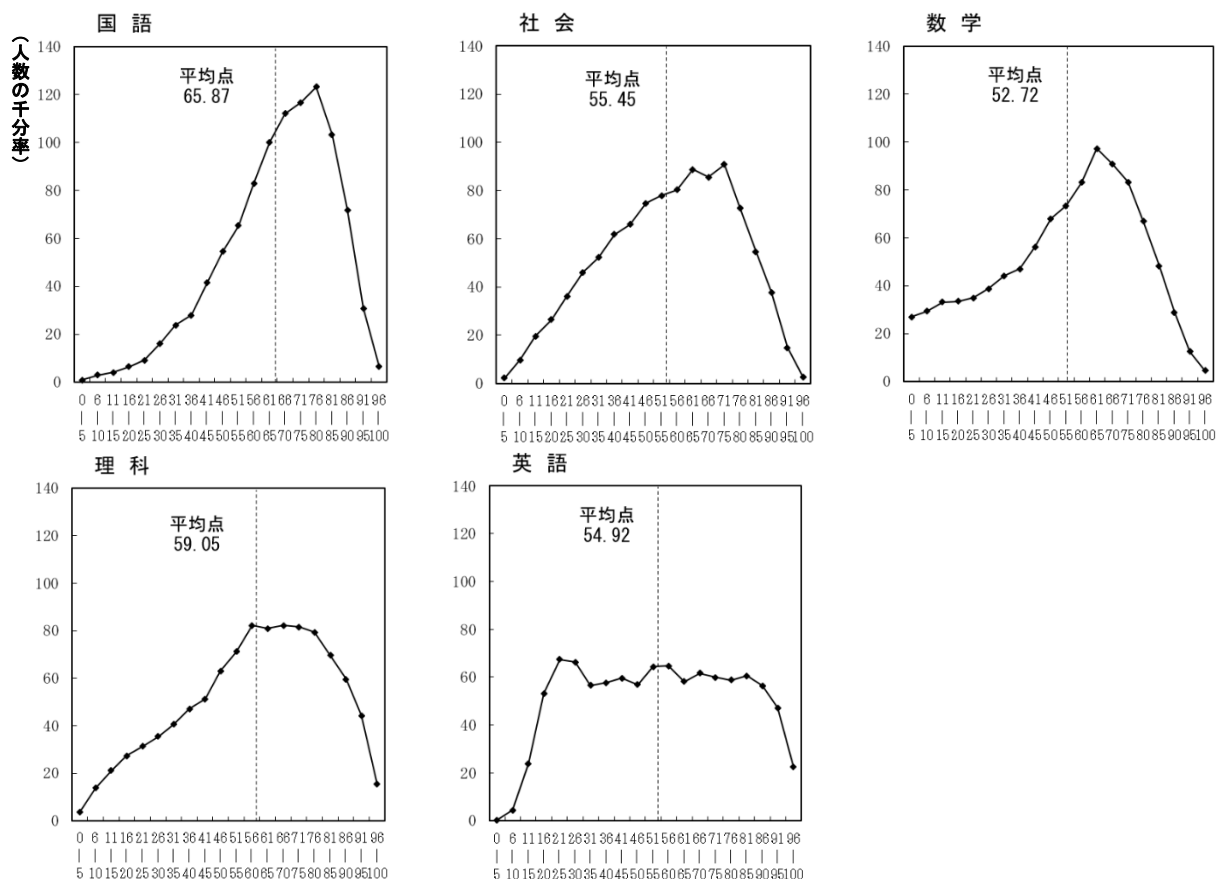
()内は前年度数値、平均点についてはその増減

| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|---------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 平均点 | 65.87 (59.54, +6.33) | 55.45 (70.04, -14.59) | 52.72 (58.45, -5.73) | 59.05 (54.36, +4.69) | 54.92 (59.23, -4.31) |
| 100点の人数 | 5(2) | 1(45) | 9(8) | 26(3) | 36(27) |
| 標準偏差*1 | 17.4(16.8) | 20.6(18.7) | 23.0(23.5) | 22.4(21.4) | 24.1(21.6) |
| 変動係数*2 | 0.26(0.28) | 0.37(0.27) | 0.44(0.40) | 0.38(0.39) | 0.44(0.36) |

*1:数値の分布の散らばり具合(ばらつき)を表すもの。標準偏差が大きいと、平均値のまわりの数値の分布の散らばりが大きい。

*2:平均値に対して標準偏差がどの程度の比率になるかを示すために、標準偏差を平均値で割ったもの。平均値が異なっても散らばり具合を比較できるように補正した値。格差が拡大すると変動係数が上昇し、格差が縮まると変動係数は下降する。

3 教科別得点分布グラフ(グラフ中の縦の点線は平均点)



4 入学者選抜学力検査問題に対する高等学校、外部評価者・中学校からのご意見

(1) 前期選抜

①高等学校

- ・基本的な力の把握が可能。難易度に関しては、実施校によって異なる意見となった。

②中学校

- ・基礎学力の定着を把握する出題として適切である。

(2) 後期選抜

①高等学校

- ・一定の学力把握機能はあるが、記述問題が多いことによって、解答が多様化するため、採点基準の明確化をより一層図って欲しい。

②外部評価者・中学校

- ・教科書で学習した内容を中心に、基礎・基本を押さええていれば対応できる問題が多く、授業とのつながりが感じられる構成であった。
- ・各教科を通じて、知識の量的把握にとどまらず、思考力、判断力、表現力を総合的に評価する工夫がされている。
- ・教科によっては、3年の内容が多く出題されていると感じられ、全学年をバランスよく評価するという点で改善の余地がある。

5 考察・今後の対応について

(1) 前期選抜

- ・高等学校及び中学校からの意見から、「学習指導要領に沿って、各教科の分野、領域における基礎的・基本的な内容を出題」という方針に沿った出題であったと考える。
- ・今後も出題方針に沿った問題となるよう、引き続き工夫する。

(2) 後期選抜

- ・高等学校、外部評価者・中学校の意見から、概ねバランスの取れた問題であったと考える。
- ・育成を目指す資質・能力を適切に評価できる問題となるよう、問題数、文字数等のバランスにも配慮しながら、引き続き工夫する。
- ・入学者選抜の資料としてより適切なものとなるよう、知識を活用する問題の工夫や記述問題の出題方法、問題の難易度について、引き続き研究する。